永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 11月

「この日を神と共に」「あなた宛の神の手紙(川)」「贖罪の日に断食する」「食パン豆腐キッシュ」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

 今月の聖書勉強
 「あなた宛の神の手紙(II)」

 朝のマナ
 「この日を神と共に」

 This Day with God
 6

 現代の真理
 「贖罪の日に断食する」

 清めの特別な働き
 「食パン豆腐キッシュ」

 お話コーナー
 「安息日遵守(II)」

 イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話:0494-22-0465 FAX:0494-40-1045

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話:088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話:0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2017年10月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: istock on Front page, Joe Maniscalco on pages 6,46

神との結合

厳密な意味において、当時の人々は、全部偶像礼拝者であったのではない。神を礼拝すると公言する者が多くいた。彼らの偶像は、神を代表するものであって、人間はそれによって、神に関する明確な観念をいだくことができると彼らは主張した。この種の人々が、率先してノアの説教を拒否した。神を物質的対象によって表わそうとすることによって、彼らの思いは暗くなり、神の威光と力とを見ることができなくなった。彼らは、神の品性の神聖さ、また、神の要求の神聖さも不変性も悟らなくなった。罪が一般に広く行なわれ、罪が罪と思われなくなって、ついに彼らは、神の律法は廃され、罪を罰することは神の品性に反するというようになった。そして、地に神のさばきが行なわれることを否定した。もし、あの時代の人々が、神の律法を守っていたならば、神のしもべの警告が、神の声であったことを認めたことであろう。しかし、彼らの心は光を拒んだために暗黒に閉ざされ、ノアの使命は妄想だとほんとうに思い込んだ。

正しい側についたのは、大多数の群衆ではなかった。世はあげて神の義と神の律法に反対し、ノアは狂信者だと思われた。サタンは、エバを誘惑して神にそむかせようとしたときに、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう」と言った(創世記34)。世的に栄誉を受けた偉人や賢者は、同じことをくり返して言った。「神の警告はおどしのためであって、実際には起こらない。驚く必要はない。神が造られた世界を滅ぼし、神が創造された人々を罰するようなことは決してない。安心せよ、恐れるな。ノアは熱狂的狂信家だ」。世の人々は欺かれた老人の愚かさを冷笑した。彼らは、神の前に心を低くするどころか、神が、神のしもべを通して、お語りにならなかったのも同然で、彼らは不服従と罪悪にふけっていた。

しかし、ノアは、暴風の中の岩のように立っていた。人々の侮りとあざけりに囲まれながら、彼は清廉潔白で不動の忠実さを示した。ノアの言葉には力があった。それは、神がそのしもべによって人間に語られる神の声であった。神との結合が、彼を無限の力によって強くした。彼は、120年の間、人間の知恵で判断すればとうてい不可能だと思われるできごとに関して、当時の人々に厳粛な声で語った。(人類のあけぼの上巻 92-94)

第1課 あなた宛の神の手紙(II)

なぜ、これほど多くのさまざまな聖書の解釈があるのか?

この質問は、聖書は信用できないという論拠として、しばしば懐疑論者たち が尋ねるものです。しかし、彼らは正しいでしょうか。真の理解の鍵となるのは 何でしょうか。

使徒ペテロによって、一つの理由が挙げられています、「彼は、どの手紙にもこれらのことを述べている。その手紙の中には、ところどころ、わかりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている」(ペテロ第二 3:16)。

さらに、聖書は罪を非難し、心の隠された秘密を明らかにしています。これは聖書の率直な説明をあいまいなものにしようとするわたしたち人間の性質にとって気持ち良いことではありません。使徒パウロは次のように預言しました、「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう」(テモテ第二 4:3,4)。

もしわたしたちの心が変えられていなければ聖書の正しい理解に至ることは不可能です。なぜなら、罪深い人間の性質は神の御霊に反するからです。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない」(コリント第一2:14)。

今日、人は個人的な優位性を熱心に求めています。富や誉や権力を得るために、彼らは人の格言や伝統や要求を、神のご要求より上におきます。このような人からは神のみ言葉は隠されているのです。

従順は、聖書の真の理解に至る鍵の一つです。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」(ヨハネ7:17)。

聖書の霊感の主題

多くの書物には物語がまわりで展開する主人公がいます。聖書にも旧約および新約聖書の両方に中心人物がいます。イエスは次のように言われました、「〔聖書を調べなさい。〕あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」(ヨハネ 5:39)。

イエスの昇天後、二人の弟子たちがエマオへの途上で会話していたとき、このお方は命に関わる真理を彼らに説明なさいました、「こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた」(ルカ 24:27)。

神のみ言葉を研究するためにいつでも機会があるでしょうか?

多くの人々は聖書の探求を現役を退くまで、あるいは将来のある時まで延ばします。しかし、彼らは致命的な過ちを犯しているのです!

「見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくのでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。その日には美しいおとめも、若い男もかわきのために気を失う」(アモス 8:11-13)。

この素晴らしい書物―聖書―はまもなく人の役に立たなくなります。それを理解したり、その教えに従う機会がなくなってしまうのです。聖霊はそのとき、人が真理を知るのを助けるためにおられません。それにもかかわらず、今日わたしたちにはまだ機会があります。まだわたしたちのための神のご計画を知るようになる時が残されているのです。

この日を神と共に

This Day with God



11月

自分自身で知りなさい

「しかし、役人たちの中にも、イエスを信じた者が多かったが、パリサイ人をはばかって、告白はしなかった。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。」(ヨハネ 12:42, 43)

神の律法と義の福音からなお輝き出るべきもっと多くの光がある。このメッセージは、その真の性格のうちに理解され、霊にあって宣布されるならば、その栄光によって地を明るくするであろう。大いなる決定的な問題があらゆる国民、国語、民族の前に提示されるべきである。第三天使のメッセージの終わりの働きは、義の太陽の光線をすべての命の大通りや小道に伝える力が伴うようになる。そして、神が最高の統治者とする決断が下されるのである。このお方の律法はその統治の原則と見なされるようになる。

真理を信じると公言する多くの者たちは、危難の時にあって自分たちの意見を変え、迫害を避けるために神の律法の違反者の側に立つであろう。最後まで忠実に忠誠を尽くし続けるすべての人の側では、神のみ前における大いなる心のへりくだりがあるであろう。しかしサタンは多くの者たちが神の定められた道における光を受け入れることのないように、人間の思いの聖別されていない要素に働きかけるであろう。……

真理を信じていると公言している者たちが、ユダヤ人たちによく似た立場にいることを見い出されるという実際的な危険がある。彼らはみ言葉を学ぶことによって良心的に教義の教えを真理として受け入れるのではなく、自分たちが交際している者たちの意見を信じる。わたしはあなたに神を信頼するようにと懇願する。だれをも偶像化したり、だれをも頼ったりしてはならない。人間は自分の意見や感情によって支配されがちな、有限で過ちの多い者なので、あなたが人を愛しているからといって、神の栄光のためにはふさわしくない信任の立場にその人をつけてはならない。自尊心と自分本位がわたしたちの上に忍びよってきている。そして、多くの人々が不信仰と不義によって滅びるであろう。なぜなら、キリストの恵みが多くの者たちの心の中を支配していないからである。わたしたちは隠された宝を探すようにして、真理を常に探しているべきである。……

わたしたちが受け入れる準備ができているなら、イエスはわたしたちに尊い古い真理を新しい光のうちに現されることをわたしは示された。しかしそれらはまさに主が送ろうとお選びになるその方法によって、受け入れられねばならない。(原稿 15、1888 年 11 月 1 日「み言葉のより深い学びへの呼びかけ」)

祈りによってなされる事柄

「まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。」 (ヘブル 10:22)

真の信仰なくして、真の祈りはありえない。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない」(ヘブル 11:6)。祈りと信仰は魂が無限の愛のくびにすがりつく腕であり、無限の力をつかむ手である。神はご自分の真理における経験に関していえば、無言の子供をお認めにならない。信仰は活動的な、働く力である。キリストにあって生まれたばかりの信仰は、祈りと讃美によって表される。祈りは困惑した魂にとっての休息と慰めである。恵みのみ座における真剣で謙遜な嘆願者は、神によって定められた方法を通して自分が神と交わっていることと、信じる魂にとって神がどのようなお方であられるかを理解することが自分の特権であることを知ることができる。わたしたちは自分たちの必要を認識しなければならない。わたしたちはキリストにあってまたキリストを通して生命を飢え渇き求めなければならない。そのときわたしたちは謙遜と真心からこのお方のみ許へ行く。そして、このお方は愛によって働き、魂を清める信仰をわたしたちに与えてくださるのである。……

キリストは神のみ旨を実行するためにご自身を進んで快く与えられた。「おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた」(ピリピ 2:8)。このお方がなされたすべてのことを考えるとき、わたしたちは自分を否定することを困難に感じるべきであろうか。キリストの苦しみにあずかる者となることから身を引くのであろうか。このお方の死によってわたしたちの全身の繊維一本一本がかきたてられ、自分の持ち物と存在のすべてがこのお方の働きに快く捧げられるべきである。

このお方がわたしたちのためになされたことを考えるとき、わたしたちの心は感謝と愛で満たされるべきであり、わたしたちはすべての利己心と罪を放棄すべきである。神とキリストの愛の押し迫る感化力の下にあって、いったい心はどのような義務を果たすことを拒むことができようか。「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」(ガラテヤ 2:20)。

自己否定、自己犠牲的な服従のうちに、神にわたしたち自身を結び付けようではないか。キリストを信じる信仰はいつも自発的な快い服従へ導く。このお方はわたしたちをすべての不義から贖い、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するために死なれた。思い、言葉、行動において神の御旨への完全な一致がなければならない。天は真理への服従を通して魂を清めた者たちだけのためにある。(手紙 301, 1904 年 11 月 2 日 S・N・ハスケル長老と夫人へ)

輝くクリスチャン

「あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。」(テサロニケ第一5:5)

神を知るということは、このお方に完全に信頼するということである。ああ、今日人は神について何という思いを抱いているのだろうか。人は神に対して、また自分自身に対して回復される必要がある。人にとって自分自身の動機を知り、自分の感情を正しく判断することはとても難しいことであり、ダビデのように、「わたしは罪を犯した。わたしはキリストに似ていない精神を持っていた」と心から正直に認めることは人にとってとても難しいことである。

わたしたちの世において最高の力を持った人々は、カルバリーの十字架から 反射している光のうちに生きた。彼らは自分たちの間違いと過ちのゆえに、悲しみに満たされた心よりその告白を注ぎ出したのである。彼らは神のみ前において自分たちの善良さ、自分たちの賢さ、自分たちの能力を見せびらかすことをする代わりに、「わが手にお捧げするものはありません、ただあなたの十字架にすがるのみです」と言ったのであった。……

クリスチャンは誇示とは正反対である。彼らがクリスチャンである度合いに 比例して、彼らは謙遜を身につけており、この恵みそのものが暗闇とは対照的に 彼らを光にするのである。もしわたしたちがクリスチャンであるならば、わたした ちは人に賞賛され、たたえられることを求めないであろうし、わたしたちは賄賂 やへつらいのどんな誘惑によっても働きから引き離されることはないのである。ク リスチャンは恐れや非難によっても、責めによっても、憎しみによっても、迫害に よっても彼らの責任の立場から追いやられることはない。

イエスは「あなたがたは、世の光である。……そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」と仰せになられる(マタイ 5:14,16)。模範を観察し矛盾のないクリスチャン生活の感化を感じる人々がいるのである。イエスはクリスチャンに輝くように努力せよとは仰せにならないが、世に対してはっきりとした明確な光線でただ自分の光が輝くままにしておきなさいと仰せになる。あなたの光に覆いをかけてはならない。あなたの光を罪深くも差し控えてはならない。世の霧や煙やマラリヤにあなたの光を消させてはならない。それを床や枡の下に隠してはならない。かえって家の中にいるすべてのものに光を放つことができるように、それを燭台の上に置きなさい。また輝くために自分自身を高めようと骨を折ったり、落胆したときのエリヤのように洞穴の中に入ったりせず、そこから出て、神と共に立ち、輝きなさい。神は世の道徳的暗黒を貫いて輝くようにとあなたにお命じになる。塩となりなさい。それが人の味である。(原稿 40,1890 年 11 月 3 日、「サラマンカにおける幻」)

隠された宝のように

「ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受けいれ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。」(使徒行伝17:11)

わたしの主人、ジョセフ・ベーツ長老、ファザーピアス、熱心で、高潔で誠実な人エドソン長老、また今名前を思い出すことができない他の多くの人々は、1844年〔10月22日〕の時が過ぎ去ったあとで、真理を探究した人々の中に属していた。わたしたちの重要な集まりにこれらの人々は共に集まり、隠された宝を探すように真理を探究したのであった。

わたしは彼らと集まり、わたしたちは真剣に研究し、祈った。なぜならわたしたちは神の真理を研究しなければならないと感じたからである。たびたびわたしたちは夜遅くまで残り、時には共に光を祈り求めて、み言葉を研究しながら、徹夜することもあった。わたしたちが断食し祈ったとき、大いなる力がわたしたちの上に下った。しかしわたしは兄弟たちの理論がわからなかった。わたしの心は錠がかかったようになり、わたしたちが研究していることを理解することができなかった。そのとき神の御霊がわたしに臨んで、わたしは幻のうちに取り去られて、研究していた聖句の意味がはっきりとわたしに与えられて、それと共に真理と義務についてわたしたちが取るべき立場に関して指示が与えられたのであった。

その時からわたしたちが神の都にはいる時までにわたる一連の真理が、わたしの前にはっきりと示され、わたしは兄弟姉妹に主がわたしに与えられた指示を伝えた。彼らは、わたしが幻を見ないときには、これらのことについては理解することができなかったことを知っていて、わたしに与えられた啓示を天からの直接の光として受け入れた。わたしたちが今日持っている真理の主だった点は堅く打ち立てられた。次々と要点の意味が明確にされ、すべての兄弟は調和するようになったのであった。

信者の群れ全体が、真理において団結した。変わった教理を持ってくる者もあったが、わたしたちは彼らに直面することを恐れなかった。わたしたちの経験は聖霊の啓示によってすばらしく確立された。……

教理のある点について大いに当惑したのは、わたしの次男が生まれて[1849年] しばらくたった後であった。わたしが主のみ言葉を理解することができるように、 わたしの心の錠を開いて下さるように主に懇願していた。突然はっきりとした美し い光に包まれたように思われた。そしてその時以来、聖書はわたしにとって開か れた書となった。(原稿 135, 1903年11月4日わたしたちの信仰の基礎を築く」)

このお方のように完全に

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

主なる神が理性と行動の機能を与えられた者にふさわしく、わたしたちは自分たちの力を天来の目的に従って用いるべきである。神はご自分のみ手の働きにおいて誉れと栄光を受けることを望まれる。すべての人間は自分に任されたタラントをどのように使ったかを、神に言い開きをしなければならないのである。わたしたちは神の御国において永遠の命を受ける者となることができるように、自分たちの力を正しく用いる義務の下にある。神はすべての人間から完全を要求される。わたしたちはこの人性の生涯において、神が神性において完全であられるように、完全にならなければならない。

神は人のためにすべての供給をなされ、人を天使よりただ少しく低く造られたのである。アダムは背き、彼の子孫の上に罪を負わせた。しかし神は、ご自分のひとり子を人類の贖いのために与えられた。キリストは、アダムが堕落したその地を渡るためにご自身に人性を取られた。それは人類すべてがテストされ、試されるように、ご自分がテストされ、試みられるためであった。サタンはこのお方を誘惑するために、もし可能なら罪を犯させるために光の天使として訪れた。そうすることによって人類は完全に悪の支配下に置かれるのである。しかしキリストは勝利を得られた。サタンは敗北し、人類は神と共に有利な立場に置かれたのであった。

御父がご自分の御子を、人のために生き、また死ぬためにお与えになったとき、このお方はわたしたちが意のままに用いることができるように天のすべての宝を置かれた。罪のための言い訳はない。神はわたしたちが敵の誘惑に抵抗するための力を持つことができるように、与え得る限りのあらゆる優位性をお与えになった。もし人が試みられたときにキリストの模範に従っていたら、彼は自分の子供たちと孫たちに確固とした純潔と正義の模範を与え、人類は堕落する代わりに向上したであろう。……

このわたしたちの時代において、多くの者はこれがさほど重要でない事柄であるかのように行動する。しかし、人類家族が、アダムの堕落の後にさえキリストの模範に従って働いたならば、すべての父親すべての母親は彼らの子供たちに神への彼らの義務を果たすためにどのようにふるまうかという模範を残したであろう。そのようにしたら、この世界はエデンのようになっていたであろう。今は罪の砂漠となっている地上が、バラのように喜び、花を咲かせていたはずなのである。(手紙 143, 1900 年 11 月 5 日カルフォルニアの牧師、マクルアー長老へ)

罪をもてあそぶ

「ペテロは遠くからイエスについて行って、大祭司の中庭まではいり込み、その 下役どもにまじってすわり、火にあたっていた。」(マルコ 14:54)

だれ一人として、自分がしたいだけ多くの罪を犯していながら、神が最終的には許し、救ってくださるという望みを捨てずにいることによって、神の憐れみを冒したり、それにつけこんだりしてはならない。できるだけ遠くからキリストに従うことを決心し、落ちることなくできるだけ近く破滅のふちまで危険を侵して近づくことは悲しいことである。

十字架上で人のために死なれたことによって、キリストは人のために大いなる 犠牲を払われたのであった。わたしたちはこのお方の愛のために何を心から犠牲にするのであろうか。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」とイエスは言われる(ヨハネ14:15)。すなわち、一つや二つ、または九つを選び出すのではなく全十条とも、すべてこのお方の戒めが守られなければならない。ヨハネは、愛すると見せかけているが神のご要求に従わない者たちについてわたしたちに教えている。「『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない」(ヨハネ第一2:4)。「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない」(同5:3)。……

イエスは地上の貧しい者たちのうちにおられた。このお方は学識のあるラビや 指導者たちの側にある地位につかれなかった。このお方は地上の有力者のうち には見られず、貧しい者たちの中に見られた。真理は大多数のうちにおいて見ら れることは決してなかった。それはいつも少数の者たちのうちに見出されたので ある。

天から来た天使たちは預言者の学校に行かず、宮や街道で彼らの讃美を歌うことをしなかったが、メッセージを受けるのに謙遜な者たちのところへ行ったのである。彼らは救い主の喜ばしき知らせをベッレへムの高原の上で歌った。その一方で、偉大な人々、指導者、名誉ある人々は、暗闇に残された。なぜなら彼らは自分たちの立場にまったく満足しており、自分たちが持っていたよりもさらなる敬虔を持つ必要を感じなかったからである。……

偉大な人々、とても善良だと自称する人たちは、自分たちの偏狭的で自己高揚的な立場において恐ろしい行為をなし、自分たちは神に仕えていると自負することがある。彼らを信頼しても何の役にも立たない。真理、聖書の真理、あなたとわたしはどんな値を払ったとしてもこれを求める。高潔なベレヤ人たちのように何が真理かを知るために真剣な祈りをもって日々聖書を調べ、そしてどんな犠牲を払ったとしても、偉大な者たちや善良な者たちの指示をあおぐことなく、真理に従いたいのである。(手紙 35, 1877 年 11 月 6 日 非アドベンチストの親戚キャロリン・クロフへ)

あなたの心にある天国

「神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである。」(マルコ 3:35)

清らかな水源は不純な流れを送り出すことがない。真のクリスチャンは悪い言葉を発することも、周りにいる者たちと論争を起こすこともないのである。わたしたちには戦わなければならないあらゆる正義に対する敵がいるので、自分たちの心を神の側に定めるとき、わたしたちには戦うべき絶えざる闘いがある。すべての考えられる方法を持って彼は、わたしたちの勇気を失わせて落胆させようと望む。この世はキリストとこのお方のみ働きに反対の立場をとっている。しかし神のみ旨を行おうと努力している者たちに対して、この慰めがある一彼らは天の最高権力者と団結しているのである。キリストに信頼し、一歩一歩前進することによって神の子たちは勝利を得るのである。

もしわたしたちが来るべき世界において場所を持ちたいと望むならば、神の み旨に自分たちの意志を服従させなければならない。わたしたちは、自分たちの 道に輝いている光に従わなければならない。……

不法の生活を送りながらも、聖都の門へ入らせてもらうことができるとだれ も考えることのないようにしなさい。キリストが来られるとき、神に対して反逆し ている者たちは、天の宮廷に入ることを許可されない。反逆者はだれ一人天へ入 ることができない。

日毎にわたしたちは栄光の王国への準備をしている。神の標準がわたしたちの 品性を試すであろう。もしわたしたちがその試練を耐えるなら、わたしたちはあ がなわれた者たちのうちにあって場所を与えられるであろう。わたしたちは天を自 分たちの心と日常生活に持ち込まなければならない。キリストは全能の助け主で あられ、このお方に従う者は暗闇のうちを歩くことなく天の思想を理解する。彼 らは真の羊飼いの声を理解し、服従のうちに歩むであろう。

わたしたちは自分自身で聖書を調べる必要がある。わたしたちがそれを隠された宝を探すように探求するとき、わたしたちが発見する真理は神の日において立つ力を与えるのである。神はわたしたちの周りにいる者たちへの責任を負わせられる。救うべき罪人と勝ち取るべき魂がいる。わたしたちは罪が神とこのお方が与えられた働きからわたしたちを引き離すことを許すのであろうか。各自が「わたしは救い主を落胆させない」と言おう。このお方はわたしのためにむなしく死なれたということはない。わたしは永遠にわたってこのお方をほめ讃えたい。どんなことがあってもわたしは天を得なければならない。

あなたは麗しく飾った王を見たいであろうか。あなたは大いなる白い王座の周りに立ちたいであろうか。そうであるならば、あなたは神の戒めに従わなければならない。なぜならエホバの律法を生活の標準として受けることを拒む者はだれ一人として、天国に入ることがないからである。(原稿 31, 1886 年 11 月 7 日 「神のみ旨のためにわたしたちの意志を放棄する」(イタリアのトレ・ペリースにおける説教))

神の恵みの管理者

「モーセは妻の父、ミデヤンの祭司エテロの羊の群れを飼っていた」(出エジプト3:1)

モーセは自分自身を理解し、主が彼のうちにご自分の御心を果たすことができるように自分自身を空にして清めるために、羊飼いとして40年を過ごした。主は、知識と感覚における単なる機械を、ご自分の働き人としてお選びにはならなかった。両方とも働きのためには重要不可欠であるが、これらの人間的な品性の要素は神のみ旨について話すだけではなく、このお方のみ旨を行うことによって欠陥を取り除かれなければならない。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」(ヨハネ7:17)。モーセは神への訓練の下にあった。彼はイスラエルの軍勢の指導者にふさわしい者となるための精神的訓練の長い過程を耐えた。

神の任命された人々に霊感が臨むが、自分自身の精神的な優位性について 高い見解を持ち続けている者に臨むことはない。神がご自分のみ旨を行うために お用いになる一人一人は、自分自身について謙虚な意見を持たなければならず、 光を辛抱強い真剣さをもって求めなければならない。神はだれにも、未熟者にな り、自らを卑下して沈み込んで、ますます無能力になることを要求してはおられな い。神はご自身が共に働かれる一人一人に、ごく最上の種類の考えをなし、祈り をし、望みをいだき、信仰を持つようにと召しておられる。

多くの者はモーセのように、彼らが学ばなければならないその教訓を学ぶために、忘れなければならないものをたくさん持っている。彼は最も厳しい精神的また道徳的規律によって自己訓練を受ける必要があった。そして神は、彼が他の人々を思いと心において訓練するのにふさわしい者となれるよう、彼に対して働かれた。彼はエジプトの宮廷において教育を受けた。彼を軍司令官に訓練するために何一つ不必要と見なされたことはなかった。エジプトの偶像礼拝の間違った理論は彼の心に刻み込まれ、彼を囲んでいた感化、彼の目が見た事柄は簡単に払いのけ正されることができなかった。このようにどの方面においても間違った訓練を受けた多くの者たちにとっても同様である。異教の知識の偶像礼拝的がらくたはすべて、少しずつ一つずつモーセの心から除かれなければならない。エテロは彼自身が理解した範囲で、多くの事柄において正しい信仰へと彼を助けた。彼は心からひとすじに神を見ることができたとき、光に向かって上を向いて働いていたのであった。……

神はわたしたちのためにすべてのことをなされた。わたしたちは何をしたのであろうか。このお方の恵みの忠実な管理人になろうではないか。(原稿 45, 1890年11月8日「バージニア、サンズ [現在はスタンリー] において」日記)

主を知ることを切に求める

「主よ、わたしに何をおさせになるのですか。」(使徒行伝 9:6 英訳)

勝利者になろうと努力している者たちは、敵の誘惑につきまとわれるであろう。 サタンは神が彼らの前におかれた高い標準に到達したいと望む者たちすべてが、 保たなければならない原則を腐敗させようと誘惑するのである。サタンは魂が彼 らの名前が命の書から消され、不義なる者たちの名前の中に記されるようになる まで間違った考えに従うように導くことができるとき喜ぶ。わたしたちはキリスト が勝利された方法一神のすべての戒めへの心からの服従、によってのみ勝利する ことができる。真の宗教は神のすべての戒めへの服従である。

すべての救われなければならない魂は自分自身の計画を放棄し、キリストが 導かれるところへ従わなければならない。理解力はキリストによって洗われ清め られ精錬されるために、明け渡されなければならない。これはキリストの教えを わたしたちが正しく受けるときに、いつもなされるのである。ああ、なんとわたし たちはこのお方とのさらなる親密な関係を持つ必要があるのであろう。わたしたち は「主よ、わたしに何をおさせになるのですか」と心をこめて言いながらこのお方 のご計画に入り、このお方の御心を行う必要がある。……

神の子はより高い、そしてさらに高い偉業に到達する必要がある。彼はすべての罪を告白すべきである。それは彼の模範によって他の者たちが自分の罪を告白し、愛によって働き魂を清める信仰を心に抱くために助けを受けることができるためである。彼は常に見張る必要があり、決してじっと立ち止まらず、決して後戻りせず、絶えずキリストにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているべきである。……

時が短いという事実を常にわたしたちの前に置く必要がある。悪があらゆる方面において増加している。義人はこの世における光としておかれている。彼らを通して神の栄光が世に示されるべきである。常にあなたの前に将来の厳粛な出来事一大いなるさばきの審査とキリストの再臨一を見ていなさい。あなたとあなたの家族はそのために準備しなければならない。……

日毎に主を知ることを追い求めなさい。あなたがこのお方の再臨の時においてご自分の忠実に待っている子供たちと共に立つとき、「これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。……わたしたちはその救を喜び楽しもう」ということがあなたの特権であると喜びなさい(イザヤ25:9)。(手紙 92, 1911 年 11 月 9 日、ある夫と妻へ)

11月10日

天がわたしたちに向かって開かれている

「その所の石を取ってまくらとし、そこに伏して寝た。時に彼は夢をみた。」(創世記 28:11, 12)

ヤコブは自分の人生において間違いを犯したので悩まされた。彼は非常に深く落胆させられていた。ただ一人、疲れ、意気消沈し、自分の過去の間違いの記憶に苦しめられ、また将来の先行きへの心配に圧倒されて、休むために枕にした石の上に頭をおいて横になった。ヤコブの良心が明快であったなら、彼の心は神にあって強かったであろう。しかし彼は現在の当惑を知っており、彼の恐れと試練は彼の罪の結果であった。この回想が彼の生涯をいっそうつらいものにした。ヤコブは悔い改めたが、彼は自分が犯した間違いの下にあって気を楽にすることができなかった。苦難を通して、また肉体的および精神的苦しみを通して、神の恩恵を再び見出す望みしか持つことができなかった。

彼は悲しみのうちに横たわり、重い心で悔い改めていたが、なおも恐れていた。 彼は弱り果てて自分の道を進むとき、明日はなおも新しい試練が臨むことであろうと思っていた。

ヤコブに慰めの言葉を語ってくれる友も近くにおらず、心からの悔い改めによって彼のできることはすべてしたことを話してくれる者もいなかった。しかし神の目はご自分の僕の上に注がれていた。このお方は地上から最も高い天にまで達している輝くはしごと、神の天使たちがこの栄光に満ちたはしごを上り下りしているのを彼に示すためにご自分の天使を遣わされた。このはしごは二つの世界の間で常に交わされているつながりと交信をヤコブに示した。ヤコブが目を覚ましたとき、彼の困難は完全には消え去っていなかったが、神に対して大変な確信があったので、彼は慰められた。へりくだった心の感謝のうちに彼は自分の救い主を崇敬し、石の枕までも特別に尊ぶのであった。

ああ、何とすばらしい神のへりくだりであろう。このお方はわたしたちがこのお方に完全に屈服するために自分たちのするべきことをすべて果たしたとき、わたしたちの弱さにあってでさえ、いつもわたしたちに会い、ご自身のご臨在によってわたしたちを励ましてくださる準備ができているのである。天は人類に向かって開かれている。神はこれらのことをわたしたちのためにするように懇願される。将来はあなたの前に暗く見えるかもしれないが、神は生きておられる。……

すべての障壁を打ち壊し、救い主をあなたの心にお入れしなさい。自己が死ぬようにしなさい。あなたの意志を屈服させ、今、たった今すぐ自己に死に、神にあなたのために道を備えてくださるままに任せなさい。(手紙 29, 1879 年 11月 10日、エドソン・ホワイトへ)

キリストから放射されるすべての真理

「だれもあかりをともして、それを何かの器でおおいかぶせたり、寝台の下に置いたりはしない。燭台の上に置いて、はいって来る人たちに光が見えるようにするのである。」(ルカ 8:16)

わたしたちは人間の指導に従うべきではない。キリストがわたしたちの指導者である。いつもどこでも、危急なときに、わたしたちはこのお方が近き助けであることを見出すであろう。思い、言葉、行いにおいてキリストの名誉を汚す、名目的クリスチャンがいるので、わたしたちは今までになくこのお方のうちにある自分たちの完全さのはっきりとした証拠を与えなければならない。わたしたちはこのお方のみ顔の光のうちに歩くべきである。わたしたち一人一人は、キリストが光であられ、このお方のうちにはまったく闇がないことを示すことができる。もしわたしたちがこのお方の導きに服するなら、このお方はわたしたちを、罪によってわたしたちが取り残された低いレベルから、恵みの最高の高さにまで導いて下さる。わたしたちは自分たちの不完全さや他の者たちの不完全さを話すことによって、わたしたちの生活を暗くしてはならない。わたしたちずべての者は主にあって光になるべきである。

キリストからすべての真理が放射されている。キリストから離れては、科学は 人を惑わすものであり、哲学は愚かである。救い主から離れた者たちは、狡猾な 敵があみだした理論を推し進めるであろう。キリストのご生涯は、あらゆる偽り の科学、あらゆる間違った理論、そしてあらゆる惑わしの方法とは、顕著な対照 をなしている。

神のみ言葉に何の根拠もない理論を持つ偽善者が起こる。わたしたちは、神の戒めとイエスの信仰という文字を帯びた旗を高く掲げるべきである。わたしたちは自分たちの最初の確信を最後までしっかりと持っているべきである。だれ一人として詭弁という混合物で真理を薄めようと企てないように。だれ一人としてわたしたちの信仰の土台を壊そうと企てたり、あるいは人間の考案という糸を織物に編みこむことによって型(パターン)を台無しにしたりしてはならない。汎神(はんしん)論の糸一本でさえも織物に編みこまれてはならない。魂と体を破滅させる肉欲はいつも、これらの糸が織物に編みこまれる結果である。

「しかし、わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛との胸当を身につけ、救の望みのかぶとをかぶって、慎んでいよう。神は、わたしたちを怒りにあわせるように定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによって救を得るように定められたのである。キリストがわたしたちのために死なれたのは、さめていても眠っていても、わたしたちが主と共に生きるためである。だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い、相互の徳を高めなさい」(テサロニケ第一5:8-11)。(手紙 249, 1903 年 11 月 11 日、インマヌエル宣教大学の設立を先導している教育者たちP・TマギャーンとE・Aサザランドへ)

全世界へ

また主に連なり、主に仕え、主の名を愛し、そのしもべとなり、すべて安息日を守って、これを汚さず、わが契約を堅く守る異邦人は――わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、わが祈の家のうちで楽しませる」(イザヤ 56:6, 7)。

救いの喜ばしき知らせは、それを聞いたことのない者たちのもとへもたらされるべきである。サタンは神の民を偽りの光のうちに世の前に示そうと決意している。彼は彼らの生活が欠点を明らかにし、彼らが好ましくない品性の特質をいだいているときに喜ぶ。これらの品性の特質を彼は自分の働きに用いるのである。彼は偽りの理論と偽りの科学を持ち込むことによって、神の民を継続的な不確かさの状態に保とうと努力している。彼はアダムとエバを欺いたときのように、彼らを欺こうと求めている。彼らの真の助言者であられる神から離れ去るように、また彼の心霊術的詭弁を受け入れるよう彼らを導くことを望んでいる。これらの光の衣を着せられた詭弁をもって、彼はもしできることなら選民をも惑わすことを求める。

多くの者たちが彼の誘惑に屈し、この時代のための真理を未信者たちに分からせるために用いられるべき神の僕たちの時間と影響力は、サタンの罠から信者と公言する者たちを取り戻す努力のうちに使われているのである。そのように真理の前進への道が閉ざされているのである。人々が自分自身に頼り肉を自分たちの腕としている間は、王の大通りの障害物を除くことはそうたやすいことではない。……

正義と公平を行い、その手をおさえて、悪しきことをすることのないすべての者たちに対する約束は「わが家のうちで、わが垣のうちで、むすこにも娘にもまさる記念のしるしと名を与え、絶えることのない、とこしえの名を与える」のである(イザヤ56:5)。

神の民の中で植民地が作られるべきではない。主の言葉は「あなたは右に左にひろが」るである(同 54:3)。彼らはすべての所で植えなければならない。どこでもこの時代のために真理が宣布されなければならない。光が差し込んだ心をもった人々は、自分たちが神の働き人、このお方の証人であることを覚えるべきである。このお方に仕え誉れを帰すということが彼らの科学となるべきである。彼らは他の者たちにこのお方の戒めを守って生きるようにと呼びかけなければならない。神の律法への従順がこの世を試すことになる試金石である。……

すべての民族、国語、部族、国語に真理が宣布されるべきである。都市において、またなおざりにされ、働きのなされていないすべての地域において、もっと積極的な働きがなされる時が来た。(手紙 263, 1903 年 11 月 12 日、医者たちと看護士たちへ)

論争の時間はない

「このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。」 (ローマ 5:18)

神のためになしたと公言されている奉仕の大半に、自己の張り合いや自己高揚がある。神は見せかけを憎まれる。男女が聖霊のバプテスマを受けるとき、彼らは自分たちの罪を告白し、許し、すなわち義認が彼らに与えられる。しかし改心していない、謙遜ではない人間の代理人の知識には頼るべきではない。なぜなら彼らは真理による義と義認の意味に関して盲目だからである。もし自己の義が人間から剥ぎ取られたら、彼らは自分たちの霊的貧しさを見るであろう。そうすれば彼らは兄弟愛の状態に達し、彼らはキリストに共感していることを示すであろう。彼らはクリスチャンの宣教の働きの高く高尚な性格を正しく評価することができるであろう。……

多くの者たちは主にわずかな奉仕をささげることによって、たやすく満足している。彼らの宗教は弱々しいものである。キリストは罪人にご自身を与えられた。わたしたちは人類が罪のうちに滅びていくのを見るとき、魂の救いのためにどれほどの熱望で満たされるべきであろうか。これらの魂は代価をもって買われたのである。

カルバリーの十字架における神の御子の死が彼らの価値の評価である。毎日彼らは生死の問題を決定している、すなわち永遠の命もしくは永遠の滅亡のどちらを受けるかを決定しているのである。しかし、キリストに仕えると公言している男女が、あまり重要でもない事柄へ彼らの時間と注意を占めることに満足している。彼らは互いの不和に満足しているのである。もし彼らが主人の働きに献身していたとすれば、手に負えない子供たちのいる家族のように、奮闘し論争していることはないはずである。すべての手は奉仕に専念しているはずである。各自は自分の義務の持ち場につき、キリストの十字架の宣教師として一生懸命に働くはずなのである。キリストの精神が働き人たちの心にやどり、義の働きがなされるであろう。働き人たちは目覚めた教会の同情と祈りを、彼らの奉仕に持ち込むであろう。彼らはキリストから指示を受け、議論や論争に費やす余裕はないであろう。(手紙 173、1902 年 11 月 13 日バトルクリークの委員会に集まった者たちへ)

11月14日

キリストがあなたの光になるようにしなさい

「しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、 わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがる であろう。」(ヨハネ 4:14)

神は命の水を飲んできたすべての者たちに、他の者をその源に導くようにと呼びかけておられる。……「わたしイエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことをあなたがたにあかしした。わたしは、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」(黙示録 22:16)。キリストがあなたの光となるべきである。キリストがあなたを満ちたらせ、また力となるべきである。キリストは根であり、ご自身の力によってすべての枝を支えられるのである。……

すべての改心した魂にはなすべき働きがある。わたしたちは惜しげなく恵みを与えるためには、恵みを受けなければならない。わたしたちは輝かしい明けの明星から光が輝き出るようにし、キリストがご自身のご生涯と品性のうちに与えてくださった模範に従うことによって、自己否定と自己犠牲の働きのうちに光を投じるべきである。わたしたちは多くの実を結ぶことができるようにさせる物を、根から吸収しなければならない。天来の招待を聞いたすべての魂は、接触する者たちに向かって「来なさい」と言いながら、丘から谷間へとメッセージを反響させるべきである。……

心にあるイエスの愛は、キリストが非常に高い値を払われた魂たちに向かって、やさしい憐れみのうちに表されるのである。「子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。……そして、願い求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである」(ヨハネ第一3:18-22)。愛のないクリスチャンというのはありえないのである。……

すべての真の信者は明けの明星からの輝きをつかみ、暗闇にすわっている者たちに光を送るのである。彼らは自分たちの近隣の暗闇のただ中にあって光るだけではなく、教会として彼らは彼方の地域に光を放つのである。主は各自が自分たちの義務を果たすことを要求される。教会に結合しているすべての者は明けの明星の光線を放つために、キリストとひとつになるべきであり、世の光となることによって、キリストとその民は世の救済の偉大な働きにおいて協同者となるべきである。(原稿 51, 1893 年 11 月 14 日)

現在の利点と将来の利益

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」(ヘブル12:2)

わたしたちは危急なときに好意を示してくれた人々への感謝の気持ちを、常に大切にするべきである。しかし、友人の親切や私心の無さによってすぐにもわき起こるこうした気持ちは、わたしたちの情け深い天来の友であられるお方の愛と同情にこそ応えるべきである。……最も近しい大切な身内や友人によって表される友情も、イエス・キリストの啓示にははるかに及ばず、後者と比べれば、前者は無言でまったく表現されていないのに等しい。わたしたちのために何かをしてくれたあるいは苦しんでくれた者たちに対して暖かい愛情の気持ちを抱くのは自然なことである。

十字架の光景へとあなたを連れて行き、神の御子があなたの代わりに死のうとしておられるのを見せてあげよう。キリストの十字架の光景が、あなたにすべての感謝の気持ちを起こさせないであろうか。それはわたしたちのために払われた大いなる犠牲に対する感覚を冷酷にする冷たさと無関心を吹き飛ばさないであろうか。……

魂の敵であるサタンは、つねに彼の策略と魔力を用いながら働き、わたしたちの感覚をひそかに奪い、わたしたちの最高の関心事への感覚を鈍らせている。生活のあらゆる小さい事柄に対しては愛情がほしいままに与えられているが、永遠の関心事においては愛情が魔法のひもで縛られているかのように、束縛されている。……

相当な犠牲を払い、貧困に耐えてでも、将来の利益を約束している道を追い求める人々が実に多くいる。将来のことを考えて、それに相当する現在の安楽は見送るのである。しかし、ここでイエスは服従の報いとして永遠の命を与えておられる。そして、地上の利益の取るに足りない事が、将来のいくらかの利益のために犠牲にされるとすれば、将来の不死の命という比類のない富と栄光のためには、どんなにかもっと安楽や快楽、また現世の世的な利益が犠牲にされるべきであろうか。地上の魅惑という魔法が神から愛情を盗み、永遠の利益に対して心をかたくなにすることがないようにしなさい。見えないものに目を注ぎなさい。イエスを心の中で大事にあがめなさい。あなたの魂のすべてを尽くしてこのお方を愛しなさい。(手紙 15a, 1871 年 11 月 15 日, エドソンとエマ・ホワイトへ、エドソンは 22 歳、エマは 23 歳であった)

われらの避け所また力

「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。……万軍 の主はわれらと共におられる。」(詩篇 46:1-11)

信仰がわたしたちの救いの土台なのではないが、それはすばらしい祝福一見る目、聴く耳、走る足、つかむ手である。それは手段であって、終わりではない。

もしわたしたちが日毎に自分たちの意思を神に明け渡すならば、祝福が成就するというあらゆる励ましがある。「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」(ヨハネ1:16)。わたしたちのためのキリストの恵みのすべての啓示は、わたしたちのためである。わたしたちは自分自身の生活において、思い、言葉、行いにおいてこのお方の恵みを表すべきである。キリスト・イエスを語り、行動する機会を逃さないようにしよう。わたしたちはキリストの憐れみ、愛、力一このお方がわたしたちに与えられた力を表すべきである。……

キリストを通して受けた力がなければ、わたしたちは何の力も持つことができないであろう。しかしキリストはいっさいの権威を持っておられる。「イエスは彼らに近づいてきて言われた、『わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』」(マタイ 28:18-20)。

ここにわたしたちの力、わたしたちの慰めがある。わたしたちは何の力も持っていない。しかし、このお方は「いつもあなたがたと共にいるのである」と仰せになる。あなたが自分の義務を果たすのを助け、導き、慰め、聖化し、そしてあなたを支える。あなたが、他の者たちの注意をキリストに向けさせ、彼らの思いのうちに真理の希望と意味を理解したいという願いを起こさせ、彼らを暗闇から光へと、また罪の力から神へと向き直らせる言葉を語るとき、成功させると仰せになるのである。

慰めと励ましの単純な言葉によって、人間が神のみ言葉を話すことができると考えることはすばらしい。最もいやしい器が、芽を出して実を結ぶことのできる真理の種を蒔くために神に用いられる。なぜなら真理の種が心に蒔かれた人は、助け一親切な思い、親切な言葉一を必要としていたからである。それらは「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」と仰せになったお方によって効果的にされたのであった。(手紙 329, 1905 年 11 月 16 日、彼女の 19 歳の孫娘マーベルへ)

わたしたちの特別な働き

「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。」(黙示録 22:17)

主はご自分の教会に個人の奉仕という特別な働きを与えられた。神は人間の 改革の働きのために天使を送ることが出来たが、そうなさらなかった。人間は人間に接触しなければならない。……

キリストの任命は受け入れられ、実行されるべきである。わたしたちは信仰のうちに、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」と仰せになられたお方のご臨在を求める真剣な祈りと共に、出て行かなければならない(マタイ 28:20)。そのような交わりの約束を持っていながら、もしわたしたちが自己否定と自己犠牲の十字架を取ることを拒むとすれば、わたしたちは大いなる不信と不服従の罪を犯しているのである。……わたしたちの魂に入ってきた光を伝えるとき、聖霊はさらなる光を与え、わたしたちの心は主の尊い喜びによって満たされるであろう。……

わたしたちには、人々に示すべき、十字架につけられてよみがえられた救い主がいる。イエスに許しを求めてきたすべての者たちは、このお方が彼らの罪を取り除き、ご自身の義を着せられる用意がいつもできていることを見出すであろう。キリストのもとに来てまことに改心した者たちは、キリストの許にいない魂を救うことを渇望するのである。神を最高に愛し、隣人を自分のように愛する者たちは何もしないで満足し休んでいることができない。……

神は謙遜な者たちをご自分の器として用いられる。彼らがひとつのタラントしか持っていなくても、もし彼らがそれを用いるのならそれは増加するのである。教会における大いなる過ちは魂の救済の働きがとても限られていて、神の御国の前進が遅いことである。堕落した教会は、人間のうちに神の道徳的かたちを回復するためにイエスと協力する働きにおいてタラントを用いることをしない利己的な教会の確かな結果である。わたしたちはすべての造られた者に仕えるべきである。わたしたちは自分たちの友人、自分たちの知り合い、世と結合し神から遠ざかった者たち、すべての者たちのために働く責任が負わされている。明らかに好意的で喜んで同意する者たちはわたしたちの働きの範囲に入るべきである。真理はわたしたちと同様に彼らのものでもある。そしてわたしたちは「来たりませ」と言わなければならない。(原稿 123, 1897 年 11 月 17 日、「キリストの任命」)

神は美を愛される

「すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行うがよい。」(コリント第一14:40)

神は闇の中からご自身の驚くべきみ光へと招かれた者たちがだらしなく、不注意で、いい加減であることによって栄光を受けられないのである。わたしたちは秩序と整頓に関する限りは天の型に倣いたいものである。そして天が望ましく魅力的であるなら、わたしは自分の敷地が単純さ、また秩序において魅力的であることを望む。わたしたちすべては、徹底、整頓、秩序が神を愛し、畏れる者たちのあいだで普及するべきであることを考える必要がある。なぜならこれによってわたしたちは自分たちの信仰を推奨しているからである。

わたしたちは見る人々に印象を与えている。神とのわたしたちのつながりが、わたしたちの家と敷地内において清潔でありたいとの願いを増し加える。わたしたちの住宅の周りに植えられた果樹、観葉植物、また花々は、多くの面において益となる。

主は美しいものを愛されるお方である。なぜなら、主がそびえたつ木々、芝生の芽、美しい生垣、優雅な花々を造られたからである。そして、これらすべてのものには見る人を和らげ、抑制させる感化があり、その感覚が魅せられるとき、彼らは無意識のうちに自然から自然の神へと引かれるのである。もし主が自然の美しさのうちに育っているさまざまな美しい花の中に、ご自分の愛の表現を与えることにおいてわたしたちのことを心にかけて下さるのなら、わたしたちはこのお方への感謝に満たされないのであろうか。イエスがわたしたちにするようにとお命じになられた通りのことをしないであろうか。「野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」(マタイ 6:28, 29)。ここで主は人工的なものと自然なものを対比しておられる。……

わたしは見えるところに神の尊いものをおき、すべて健康的なものをわたしの 敷地の周りに持つために、いくらかの金銭を賢く使う。わたしたちが自分たちの 信仰によって、粗野な者になりさがったり、だらしなく、無規律で、汚らしくなっ たりすることはないということを、すべての人がわかるように、わたしはこうするの である。……

主がまもなく来られることをあなたが信じているがゆえに、この地上において 純潔で清潔で聖なる者となることによって、純潔で聖なる天のために準備をして いるのだということをすべての人がわかるようにしなさい。そうすることによってあ なたは、上にある聖なる住まいに呼ばれたとき、我が家としてくつろぐことができ るのである。主は霊感を受けた使徒を通してわたしたちになんと仰せになられて いるであろうか。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下 さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」(ペテロ第一2:9)(原稿28,1889年11月18日、「重要な夢」)

快活さは神に栄光を帰す

「そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。」(コロサイ3:17)

天の光が輝くことのできない心があるところには、キリストが宿ることのおできにならない孤独がある。すべての魂の傍らには天使がいる。キリストによって天のすべての宝が、わたしたちの世に与えられていることを示されてきた。何一つも残されなかった。もし人が自分の心の戸をキリスト・イエスに開けることをしないで、彼と交わることをしないならば、サタンの使いが彼と交わるであろう。

快活が溢れているのは、神の栄光のためである。和らげ、鎮圧するキリストの 恵みの感化が存在するのなら、快い言葉がいつも語られるであろう。もし人が間 違いを犯すなら、一人で間違った者の所に行きなさい。勧告の言葉を力をこめて 話すのではなく、あなたの声を調節しなさい。神の管理者としての影響力のある 立場を占める者は、言葉と行いによって刺激することのないように特別な注意を 払うべきである。彼はすべての働き人に快く話すべきであり、気質の神経過敏さ または不機嫌さを表さないようにするべきである。……

責任ある地位に置かれているすべての者は、自分の地位が同僚の地位より責任の大きいものであればあるほど、どのように話し行動するかについてもっとより注意深くならなければならない。なぜなら神のみ働きに携わっている者たちは、親切に語ることによってのみ主人を喜ばせることができるからである。思いやりのないまた無分別に語られた言葉はどんなものであっても、その場で取り消すべきである。もし話す者がこれをすることを忘れるならば、またはもし彼が自分の思いやりのなさを後悔することがないなら、だれかがキリストの精神をもって彼に謝罪する義務を気づかせなければならない。なぜならわたしたちは一致して働くと公言するクリスチャンとして、罪人のように、すなわち、悔い改めない限り、その罪深い言葉や行動によって罪に定められる罪人のようにふるまってはならないことを覚えているべきだからである。……

クリスチャンはキリストが彼らを愛されたように、互いに愛すべきである。世が福音の真理を認めるか認めないかは、この愛の表れにかかっている。キリストが捧げた最後の祈りの中で祈られたのは、このためであった。クリスチャンは手に負えない子供のような行動をしてはならない。神の子供であると公言する者たちは、彼らの改心していなかった生涯の子供じみた習慣を後にしたという証拠を、世の前に示さなければならない。(手紙 179, 1902 年 11 月 19 年、テネシーナッシュビルで出版されたサザン・ウォッチマンの編集者、P.C. ポールマンへ)

天の前触れ

「すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」。」(黙示録 21:5)

朝の集会〔ミシガンのバトルクリークにおける総会〕においてわたしたちはここで生み出された証を聞いていた。「わたしたちが再び会うときには、二度と別れることがないであろうか」という最後の讃美歌が歌われた時、わたしはほとんど自分自身について忘れてしまった。わたしの思いは向こう岸、神の都にある大いなる白い御座の周りにおいて大集会が開かれ、贖われた者たちが勝利と克服と神と小羊への讃美を歌う時にまで及んでいた。そして、それはとても厳粛な素晴らしい気持ちをもたらした。それはわたしの心をやわらげ、涙が流れていくのをとめることができなかった。ああ、わたしたちは御座の周りに集まり、キリストの義の白い衣を着せられて、何という幸福を楽しむことだろう。もはや悲しみも、別れもなく、永遠に途絶えることなく、平和のうちに住み、幸福のうちに住み、そして栄光のうちに住むのである。わたしたちは何と幸せな、実に幸せな群れとなることであろう。

では、ここにおいて同じ特権について考えてみよう。わたしたちが神の子供、 王家の一員となることができるようにと払われた救い主の計り知ることができない 犠牲を考えるとき、またどれほど高められるかを考えてみるとき、またこれらのす べての特権がわたしたちのものとなり、毎日わたしたちのものになることができる ということ、そして神のむすこ娘に属している特権を持つことができるということ を考えてみるとき、いったいわたしたちのうちでだれがつぶやきの言葉を出すこと ができるであろうか。不平の一言でも出すことのできる者がいるであろうか。い ったいつぶやきがわたしたちの心に宿ることができるであろうか。

わたしたちはこの地上において、最も感謝にあふれた人々にならなければならない。わたしたちの幸福は神を信じるわたしたちの信仰―このお方を信じるわたしたちの信頼にかかっている。そうであれば、わたしたちがどれほどの望みを持ち、どれほどの信仰を持っているか、そしてそれがかの世界にまっすぐ及んでいるということを考えるとき、またそれが永遠に途絶えることなく続くということを知るとき―わたしは今夜あなたに示されたこれらの訴えについて、あなたがどのように感じるかを知りたいのである。……

もし、この働きにわたしが加えることのできる何かがあるのなら、それは加えられるであろう。しかし自分たちの財産を心からささげる者が多くいるが、彼らは自分自身を捧げないのである。この働きに自分自身をささげる者を見出すことができないのはなぜであろう。(原稿 5, 1883 年 11 月 20 日ミシガン、パトルクリークでの世界総会の集まりの朝の閉会式におけるホワイト夫人の説教)

不死への備えをする

「なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたした ちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。」(ヨハネ第一5:4)

この地上におけるわたしたちの時はいくらよくても短い。だから、わたしたちの行動すべてが、神のみ事業を強化し、前進させるものであるようにと望む。……わたしの魂の奥底を改心させてくださいというのが、神へのあなたの叫びになるようにしなさい。このお方の恵みの変化させる力のために神に懇願しなさい。神があなたにあなた自身を示してくださるだけではなく、ご自身を示してくださるまで、ヤコブがしたようにあなたの救い主をしっかりとつかみなさい。そうすればあなたは救い主のうちにあなたが今まで感じたことも悟ったこともなかった強さと支え、輝きと力を見るであろう。……もしあなたの信仰が根気強く約束をつかむのなら、あなたは勝つことができる。わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。

あなたが自分自身に対して誠実である限り、この世と地獄の反対の勢力もあなたの平安を壊し、神とのあなたの交わりを妨害することはない。もしあなたが神を畏れるなら、あなたは不確かさのうちに歩く必要はない。もしあなたがこのお方を喜ばせるのなら、あなたの魂が必要とするすべてのものを確保するであろう。著名なクリスチャンの言葉は、「宇宙においてわたしが恐れることは何もない。ただ、わたしが自分のすべての義務を知らずにいること、またそれをなさずにいることを除いては」であった。

これらの言葉をあなたのモットーとしなさい。どんな犠牲、どんな自己否定が要求されようともイエスのために立ち上がりなさい。イエスのために立ち上がりなさい、どこにいても、どこにいても、イエスのために立ち上がりなさい。あなたのすべての働きを、あたかもあなたが覆いを通して見ることができ、また神の御目が完全にあなたに向けられ、すべての行動を見られているかのように、なしなさい。

このお方はあなたをご自身の血で買い取られた。そして、あなたがこのお方の助けを必要とするとき、このお方を呼びなさい。そうすればあなたはそれを受けることができる。そうすることによって、イエスはあなたのために立ち上がられるのである。あなたの短く、不確かな生涯が将来の不死の命への継続的な準備となるようにしなさい。わたしたちが持っている品性を発見し、わたしたちの欠点を向上させるために、誘惑がわたしたちの上に来ることが許されている。魂を破滅に誘い欺くために偽装した罪を犯すようにさせる絶え間ない誘惑がある。サタン自身光の天使に姿を変え、彼は魂を破壊することにおいて神からご自身の栄光を奪うことを常に企てている。……あなたの無力な魂を神にあずけなさい。天からあなたに与えられた光に従いなさい。(手紙 42, 1879 年 11 月 21 日、エドソン・ホワイトへ)

どのように愛を生き生きと保つか

「そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝し、キリストに対する恐れの心をもって、互に仕え合うべきである。」(エペソ 5:20, 21)

もし男女が心遣い、思いやり、また親切な感謝の言葉、また愛を生き生きと保ち、自分の選んだ伴侶を得るために必要であると感じた生活上のほんの少しの礼儀を培い続けるなら、どんなに多くの困難、またなんという苦しみと不幸の潮が抑えられることであろう。もし夫と妻が愛をはぐくむこれらの思いやりを培い続けるならば、互いの交わりにおいて幸福になり、自分たちの家族に聖化させる感化を持つであろう。彼らは彼ら自身のうちにおいて幸福な小さな世界を持ち、新しい魅力と愛の新しい対象を見つけるためにこの世界の外に出て行くことを望まないのである。……

もしわたしたちの家族において心が柔らかく保たれていたら、もし互いの好みと意見に対して高尚で寛大な敬意があったら、もし妻が彼女の礼儀によって愛を夫に表現する機会を探していたら、そしてもし夫が妻に対して同様な思いやりと親切な心遣いをあらわしていたら、子供たちも同様な精神を受けているはずである。影響は一家全体に広がり、家族のうちにおいてなんという悲嘆の波が抑えられることであろう。男は幸福を探すために家庭から出ることなく、女は愛を思い焦がれ、勇気と自尊心を失い、一生病人となることはないであろう。人生の期間は一回しか与えられていない。そして、注意、努力と自制があれば、それをよく持ちこたえる、快くて、幸福なものにすることができるのである。

彼らの生涯の利害を結ぶすべての夫婦は、互いの生涯をできる限り幸福なものとすることを求めるべきである。わたしたちが大切にするものを、できるならばわたしたちは守りさらに価値あるものにすることを求めるのである。結婚の契約において男女は取引、すなわち生涯の投資をするのであり、彼らは最大限に彼らの短気で気難しい言葉を彼らの結婚以前よりもさらに注意深く制御すべきである。なぜなら今彼らの運命は夫と妻として一生結ばれたからである。そして、結婚以前にそれほど熱心に求め、大切にしていた愛を維持し、新鮮に保つために払われる骨折りと努力の量に正比例して、各々は大切にされるのである。(手紙 27, 1872 年 11 月 22 日、別フォルニア、サンフランシスコの初期の教会員、バートン兄弟へ)

狡猾に考案された作り話

「彼は言った、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められ……る』。」(ダニエル 8:14 英語訳)

将来において、大いに用心深くする必要がある。神の民の間において霊的愚かさがあってはならない。悪の霊は人間の思いを支配することを求めることにおいて、活発に活動している。人々は終わりの時の火によって燃やし尽くされるために束に結ばれている。キリストとキリストの義を捨てる者たちは、世に氾濫している詭弁を受け入れるであろう。クリスチャンは身を慎み、目を覚まして、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている彼らの敵である悪魔に断固として抵抗するべきである。

悪の霊の影響の下にある人々は奇跡を行うであろう。彼らは呪文をかけることによって人々を病気にし、それから呪文を解き、病気の者たちが奇跡的に癒されたと他の者たちが言うように導くのである。サタンはこれを何度も何度もなした。

神は、もしご自分の民が神の言葉に従い、キリストがこの世におられたときに伝えられた単純な福音の真理を信じ伝えるなら、彼らの聖所となられる。わたしたちは今までに祈ったことのなかったように今祈る必要がある。わたしたちは大いなる贖罪の日に生存しており、わたしたちは自分自身の罪を告白し、悔い改めのために熱心な働きをする必要がある。わたしたちは悪く不当な人々から救い出されるように、わたしたちの能力をすべて働きに注ぎ込むべきである。サタンは美しい天使として降りてくる。そして、神のみ前に自分たちの道をひどくゆがめてきたために自分たちがどんな者であるかを悟らず、また自分たちが何を必要としているかを知らない者たちの目の前に美しい光景を示す。敵は滅びる者たちのうちにあるあらゆる不義のだまされやすい性質に働きかけるために、大いなる力を携えて下ってきた。神は悔い改めと再改心を求めておられる。……

神の民の生活が道徳的また霊的汚染から清められるとき、彼らの目が天来の目薬で油注がれるとき、彼らは自分たちが貧しく、哀れな者、惨めで目が見えなく、また裸であることを見るであろう。彼らはユダとエルサレムのために開かれた源にきて、キリストの清める血を彼らの哀れで罪に病んだ魂に塗るのである。神はご自分を愛し、その戒めを守るすべての者たちに備えられた特権を確保することに遅くなることがないようにお与えになる。(手紙 259, 1903 年 11 月 23 日、親友であり、長年の間バトル・クリークサニタリウムにおいて看護婦長であったL・M・ホール夫人へ)

商行為における公正

「熱心で (仕事に怠惰でなく)、うむことなく、霊に燃え、主に仕え、」(ローマ 12:11)

神の僕たちは商取引によって多少は世とつながりを持たざるを得ないが、彼らは神の御目が自分たちにとまっているという認識をもって売買すべきである。偽りの秤(はかり)、欺きの分銅は使われるべきではない。なぜならこれらは主に憎まれることだからである。すべての商取引においてクリスチャンは、自分が兄弟からそういう人間だと思われることを望む通りにするのである。彼の行動方針は基本的な原則によって導かれている。彼は悪企みをすることがないので、隠すこともなければ、取り繕うこともない。彼は批判され試みられるかもしれないが、彼の断固とした高潔は純金のように輝き出るのである。彼の言葉は信頼に足るものなので、彼は自分と関わりのあるすべての人々にとって祝福である。彼は自分の隣人の弱みにつけこんだりしない人である。彼はすべての人にとって友達であり恩人であり、彼の同胞は彼の助言に信頼する。……

真に正直な人は自分の財布を肥やすために、弱さや無能力さにつけ込むことは決してしない。彼は自分が売る物に対してそれに相当する公正な値を受け取る。売った物に欠陥があるならば、自分自身の金銭的な利益には不利になっても、彼は正直に自分の兄弟や隣人に告げる。生活のすべての細部において最も厳密な正直の原則が保たれるのである。これらはわたしたちの世界を支配している原則ではない。なぜならサタン一欺く者、偽り者、圧制者一が主人であり、彼の部下たちは彼に従い彼の目的を実行するのである。しかしクリスチャンは違う主人の下に仕えるのであり、すべての利己的利益にかかわらず彼らの行動は、神にあってなされなければならない。商売上において完全な公正からはずれることはある者たちの判断においては小さいことのように思われるかもしれないが、わたしたちの救い主はそのようにお考えにならなかった。この点においてのこのお方のみ言葉は明白で率直である、「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」(ルカ16:10)。……

今日のクリスチャン世界において詐欺は恐ろしいほどまで行われている。神の 戒めを守る民はこれらのことすべてに勝ることを示すべきである。同胞に対する 人の取り扱いを台無しにする不正直なやり方は、現代の真理を信じると公言する 者によって行われるべきではない。(手紙3,1878年11月24日、疑わしい商行 為に陥った文書伝道者〇兄弟へ)

キリストの来臨を早める

「このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を 熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければ ならない。」(ペテロ第二 3:11, 12)

わたしは女王の記念祭のとき〔1887年のビクトリア女王の 50 周年記念祭〕にイギリスにいた。彼女の絵がすべての窓、新聞、ガラス、すべてのものの上に描かれていた。人々の思い出と考えの中に彼女を保つためのすべてのことがなされた。なんというパレードであろう。幾千もの金銭がその行事のために使い果たされた。なぜ人々はただ窓際に座ってパレードを見るために何ドルも払うのであろう。女王を見る窓の場所を取るために 2,3 百ドルが支払われた。

わたしはこの騒ぎが行われたとき、ちょうどそこロンドンにいた。それはわたしを悲しませた。……彼らはこれをする権利があったが、しかしわたしは思った。……ここでわたしたちは主が天の雲に乗って来られることを待ち望んでいるのである。わたしたちはこのお方を思いに留めているであろうか。もしわたしたちがイエスを本当に信じるなら、もしわたしたちがこのお方の来臨を本当に信じているのなら、またもしわたしたちがキリストのうちにあるのなら、わたしたちはすべての小さな十字架についてつぶやくべきではない。わたしたちはわたしたちの救い主キリストが、わたしたちのために何をして下さったかについて考えるべきである。わたしたちがカルバリーの十字架を見るとき、わたしたちの些細な悩みは、目の前から消え去るのである。なぜクリスチャンとしてわたしたちはカルバリーの人であるこのお方を掲げないのであろうか。ああ、このお方は栄光の衣を後にし、わたしたちのために貧しくなられたのである。このお方の貧しさによってわたしたちが富む者となるように、このお方は富んでおられたのに、貧しくなられた。

わたしたちが信仰によってキリストをつかまない限り、その犠牲はわたしたちのものではない。わたしたちは自分自身にはいかなる義もまったく持ち合わせていない。すべての預言はわたしたちにすべての終わりが近づいていることを示している。神のみ前にわたしたちの心を正しくしよう。……

かなたに生命がある。永遠。幸福な生涯。そこには死が入ることができない。マラリヤの病気はそこにはない。病気も、痛みも悲しみもない。あなたはそこにいたいと思わないだろうか。通りは金で敷き詰められており、栄光のうちにおられる王を見るであろう。わたしはそこにいなければならない。わたしは威光のうちにいる王を見なければならない。自分たちの罪を共に携えて、そこに行くことができると信じるように人々を導いてはならない。品性がここにおいて変化させられなければならない。わたしたちは天において贖いの歌を絶えず歌いたいのなら、ここにおいて贖いの歌を歌うことを学ばなければならない。神のすばらしさを歌いなさい。このお方の力について語りなさい。(原稿 20, 1888 年 11 月 25 日、「良い説教」)

現世と来世の学校

「またもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにする」(ヘブル 6:6)

各自が「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」という呼びかけに注意を払わなければならない。(マタイ11:28)。……主イエスがあなたの授業料を払われた。あなたがしなければならないことはこのお方に習うことである。高等学校において実践するキリストのような礼儀正しさは、初級学校において年を取った信者も若い信者も両者によって実践されるべきである。

キリストの学校において学ぶすべての者たちは、天の使いの訓練下にある。また彼らは自分たちが世と、天使と、人への見世物であることを決して忘れてはならない。彼らはキリストを代表すべきである。彼らは高等学校へ入学するに足るものとなることができるように互いに助け合うべきである。彼らは互いに純潔で高潔なものとなるように助け合い、神の子になるということは、どういうことを意味しているかという真の見解を大切にすべきである。彼らは励ましとなる言葉を語るべきである。彼らは弱った手を上げ、弱ったひざを強くすべきである。すべての心の上にダイヤモンドの切っ先で刻まれるようにこの言葉が刻まれるべきである。「宇宙においてわたしが恐れることは何もない。ただ、わたしが自分のすべての義務を知らずにいること、またそれをなさずにいることを除いては」。わたしたちは主を最も熱心に捜し求めるべきときに存在している。……

人間がまたもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにすることができる方法は多くある。世の職業という礼拝はサタンがひそかに近づいて、知らない間に入り込むようにさせるほど心を混乱させる。彼は誘われる者たちを堕落させるための多くの理論を持っている。世が抱いている神に関する誤った見解は、無神論への道を備えるみせかけの懐疑論である。性急な言葉と利己的な行いによって、人はたびたびキリストの心を深く悲しませる。このようにサタンは彼らを不忠実へと導くために、うむことなく働いている。彼が思いを支配するとき、そこに長く残る印象を与え、永遠の現実は消えうせるのである。

自制された精神、愛と優しい言葉は救い主に誉れを帰す。平安をつくり出すための言葉、すなわち親切で、愛情のこもった言葉を語る者たちは豊かに報いられるのである。わたしたちはキリストに仕えるように任命された者であり、わたしたちは、このお方の霊がこのお方にならった柔和とへりくだりのうちに輝き出るようにすべきである。(手紙 257, 1903 年 11 月 26 日、J・H・ケロッグ博士へ)

健康へのレシピ

「酔うためでなく、力を得るために、適当な時にごちそうを食べ」(伝道の書10:17)

規則正しい時間に食べなさい。間違った食習慣によって、あなたは自分自身を将来の苦しみのために備えているのである。食事の招待に応じることがいつも安全だとはかぎらない。たとえそれが、いろいろな種類の食物で豪勢にあなたをもてなそうとする兄弟や友達からの招待であったとしても。あなたは、一回の食事において 2,3 種類の食物を食べるなら、消化器官を害することがないことを知っている。

あなたが外で食事に招かれたとき、あなたを招待した人があなたの前に置いた多くの種類の食物を避けなさい。もしあなたが忠実な見張り人になりたいなら、これを必ずしなければならない。もし食べたら消化器官に数時間もの重労働をさせる食物がわたしたちの前に置かれたとき、自分でこの食物を食べたのであれば、その結果をそれをわたしたちに出してくれた人のせいにして責めてはならない。神は消化器官に苦痛を起こすことのない食物だけを食べるように、わたしたちに自分で決めることを要求される。……

しばしば胃の中に置かれた違った種類の食物が合わなくて、結果として醗酵する。これは多くの胃の問題の原因である。規則的な時間に食べ、健康的な食物を食べなさい。一回の食事においてあまりにも多くの種類の食物を胃に入れてはならない。

わたしはあなたにもほかの人にも、あなたは1日にたった2食だけ食べるべきであるとあえて言うことはしない。しかし一度にあまりに多くの食物を胃に入れるべきではないということは言う。なぜならこれがされるとき、胃は適切に働きをする機会がないのである。あるものにとっては、1日に3食は2食よりも良いのである。

30年もの間わたしは1日に2食しかとらず、食間に食べることもしなかった。わたしは、自分にとって2食は完全に都合が良いように取り計らうことができることを分っている。しかしだれも自分の立場を他人の基準とするべきではない。どのように理知的に体を扱うかを知ることができるように、また食べることにおいて不節制が組織の活力を破壊していないか確かめることができるように、各自は注意深く自分の体について研究するべきである。各自は体という機械をどのように適切に扱うべきか自分で知るべきである。なぜなら他にだれ一人として自分のためにこれをすることができないからである。(手紙27,1905年11月27日、カリフォルニア、ロサンゼルスの福音伝道者、W・W・シンプソン長者へ)

聖霊一賜物の中の賜物

「おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:8)

キリストは屈辱と苦しみに比例して高められた。このお方は初めからただ犠牲になることによって、贖い主である救い主になることができたはずであった。キリストの信心には何という神秘があることであろう。律法を大いなるものとし、世を破滅から救うことにおいてその条件を受け入れることによって律法を誉れあるものとし、キリストはご自分の働きを完全なものとし、ご自分の弟子たちに聖霊を送られることによってご自分の使命をなし遂げられるために天へ急がれた。そのようにこのお方は、今は永遠の喜びが満たされている神のみ前におられるが、ご自分の信じる者たちに彼らを忘れてはいないことを確信させるのであった。

聖霊はこの世にいるキリストを愛する者たちの上に下るのであった。彼らの頭であられるお方の栄化のうちに、またそれを通して、彼らは自分たちの任務を果たすために必要なすべての賜物を受ける資格を与えられるのであった。命の与え主はご自身のみ手のうちに死の鍵だけではなく、豊かな祝福のある全天の鍵を持っておられる。天と地のいっさいの権威がこのお方に与えられ、天の宮廷においてご自分の場所を占められて、このお方はこれらの祝福を、ご自身を受け入れるすべての者たちに与えることができたのであった。

キリストは弟子たちに「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう」と言われた(ヨハネ16:7)。これは賜物の中の賜物であった。聖霊は人間が受けることのできる最も貴重な宝として送られた。教会は霊の力によって洗礼を受けた。弟子たちは、まず初めに公正な王に恥辱を与える恥ずべき行為が行われたエルサレムにおいて、そしてそれから地の果てまでも出て行ってキリストを伝えるのにふさわしいものとされた。……

神の下に御子の名によって来るすべてのものに与えられる祝福は、何と豊かで惜しげのないものであろう。もし彼らがこのお方のみ言葉の中に置かれている条件にしたがえば、このお方は天の窓を開いて、あふれる恵みを彼らに注がれるのである。……神の民がこのお方の戒めに従うことによって自分自身を清めるならば、主は彼らのうちで働かれるのである。このお方は彼らの品性を純潔で聖なるものとすることによって、へりくだり、悔いくずおれた魂を新たにされるのである。(原稿 128, 1897 年 11 月 28 日、「唯一の真の仲保者」)

天使たちの奉仕

「御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、 つかわされたものではないか。」(ヘブル 1:14)

主は与えられたすべての光に従う者たちを、暗闇の中に残される事はなく、彼らに伝えるためにご自分の天使をお遣わしになる。コルネリオは旧約聖書にあたえられた指示に従って生きており、主は彼に何をすべきかということを教えるために使命者をお送りになった。

神はコルネリオに彼が必要としていたすべての指示を天使によって与えることができたが、これはこのお方のご計画ではなかった。このお方のご目的は、上よりの知識を得ていた人々、そして光を求めている者たちにこの知識を分け与えることを自分たちの働きとしていた人々とコルネリオを接触させることであった。神はつねにこのようにご自分の民を扱われるのである。

「ヨッパに人をやって、ペテロと呼ばれるシモンという人を招きなさい。この人は、海べに家をもつ皮なめしシモンという者の客となっている」と天使は言った(使徒行伝10:5,6)。コルネリオは与えられた指示に従った。彼は教会につながり、神とともに働く有用な影響力を持つ働き人となった。

この実例はわたしたちにとって慰めと力となるべきである。神の奉仕に携わっている者たちに天と地の間に存在している関係を詳しく研究するようにさせなさい。天と地の器は、暗闇の中にいる者たちに光を伝達する大いなる働きにおいて結合するべきである。

天の御使たちは、わたしたちに祝福を伝えるのである。そして、今度はわたしたちが、それらを自分たちの同胞仲間に与えるのである。

コルネリオに与えられた称賛に注意しなさい:「あなたの祈や施しは神のみ前にとどいて、おぼえられている」(4節)。彼の忠実さは天において認められていた。彼に貸されたタラントを正しく用いたので、神は彼がさらに大きな光と、さらに大きな責任を委ねられるのにふさわしい人であることを見られた。わたしたちは自分たちの管理責任を神聖な責任として見なすべきである。わたしたちは委託されたタラントを勤勉に取引するべきである。わたしたちがこうするとき、神はわたしたちの忠実な努力を認められ、奉仕のためにさらなる能力を与えられるであろう。

神はご自分の民がご自身の栄光となる実を結ぶために、彼らをととのえようとしておられる。パウロは「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である」と言っている(コリント第一3:9)。(原稿65,1900年11月29日、「教会への教訓の言葉」)

日ごとの改心

「偽りのはかりは主に憎まれ、正しいふんどうは彼に喜ばれる。」(箴言 11:1)

わたしたちは日ごとに再改心を経験する必要がある。もしあなたの商取引において主が不当と呼ばれる利益を得たならば、神のみ前に正直で義なる者となるためには、その前にこれを正さなければならない。これらの事柄はどこにおいても神の民によって正されなければならない。……あなたがこの再修正と神との関係を正しくする働きに取りかかるとき、天使はどこであなたが物事を間違った光によって見たかを理解するために識別力を与えて、あなたと協力するであろう。

キリストと天使はあなたの働きを見ておられる。彼らはすべての行動を計っておられる。あなたの生涯が柔和で心のへりくだったイエスを表すようにしなさい。このお方があなたの立場におられたらなさるはずのことをするよう奮闘しなさい。あなたの厳格な高潔さの秤と天来の秤との間に不一致がないようにしなさい。真の、純潔な原則が、神の日において正しい義なるものたちに宣告されるすべての魂の生活を支配しなければならない。

商業世界において世の者たちが公正で正直であると見なしている多くの取引があるが、神はそれを有罪とされる。人々は自分たちが正しい計画と見なす計画を立てるが、それはキリストがご自身のみ言葉のうちに置かれた真で無私の原則とは一致しないのである。……しかしこの世の是認が、不義なる行いを義なるものとすることは決してないし、不法行為は悔い改め捨て去られるまでは、全宇宙の前に不正行為として残るのである。

主は彼らの兄弟とでも世の人々とでも不正な商取引によって、自らを堕落させる者たちを祝福することがおできにならない。このようなことをする者たちは彼らの霊性を失い、冷たく形式的で利己的になるのである。彼らは自分たちの過去のあやまちを、神のみ言葉の原則に反する自ら考案した理論によってうまく言い繕うのである。

すべての商取引を特徴づけるべき原則はキリストによって明白に言明されている。「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である」(マタイ 7:12)。 ……

魂の熱烈な熱心さを破壊する愚行、邪悪な推測、自己を高めることは捨て去られ、真の信者は心をへりくだらせ、滅び行く魂のための働きにおいて熱心になるのである。(手紙 164, 1909 年 11 月 30 日、ワシントンとマウンテンビューの働き人たちへ)

研究 11

清めの特別な働き



3. 清めの特別な働き、罪の除去

絶やすことなく捧げられた常燔祭は、朝に夕に毎日二頭ずつ捧げられました。この捧げ物は、つねに自分のための犠牲を目の前に見る魂のために、キリストが清めの働きを続けてくださることを教えていました。常燔祭が絶えることなく捧げられる一方、贖罪の日にはさらに七頭の小羊が捧げられました。この贖罪の日に清めの働きが完成します。キリストの完全な清めの働きが完成するその日、民はその恩恵にあずかるために何をすべきだったでしょうか。

贖罪の日に断食をする

「贖罪のわざがなされている間、すべての人は魂を悩まさなければならなかった。日常の働きをやめて、イスラエルの全会衆は、その日を厳粛に神の御前にへりくだって過ごし、祈り、断食し、心を深くさぐったのであった」(人類のあけぼの上巻 420)。

「そこでわたしは、かしこのアハワ川のほとりで断食を布告し、われわれの神の前で身をひくくし、われわれと、われわれの幼き者と、われわれのすべての貨財のために、正しい道を示されるように神に求めた」(エズラ 8:21)。

「その日、万軍の神、主は泣き悲しみ、頭をかぶろにし、荒布をまとうことを 命じられたが」(イザヤ 22:12)。

「われわれが断食したのに、なぜ、ごらんにならないのか。われわれがおのれを苦しめたのに、なぜ、ごぞんじないのか』と。見よ、あなたがたの断食の日には、おのが楽しみを求め、その働き人をことごとくしえたげる。見よ、あなたがたの断食するのは、ただ争いと、いさかいのため、また悪のこぶしをもって

人を打つためだ。きょう、あなたがたのなす断食は、その声を上に聞えさせるものではない。このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食ととなえ、主に受けいれられる日と、となえるであろうか」(イザヤ 58:3-5)。

「『これを断食ととなえ、主に受けいれられる日と、となえるであろうか』。彼らはこの譴責を受け入れ、真の悔い改めのために祈るであろうか。彼らは自分たちの罪を捨て、許しを求めるであろうか。

彼らのなすべき働きがある。彼らは自分たちの家族の中に、自分たちの同胞との交わりの中に、天の雰囲気を持ち込まなければならない。彼らは、モーセにあらわされたように、神のご品性を表さなければならない」(原稿リース5巻32)。

「型の贖罪の日には、すべての人は自分の魂を神のみ前に悩ますように要求された。彼は他の人々の魂を悩ませるのではなかった。そうではなく、働きは神と自分自身の魂の間のことであった。同じ自己吟味とへりくだりの働きが、今わたしたち一人びとりに要求されている。そしてわたしはあなたが永遠のために徹底的な働きをするようにと嘆願する」(サインズ・オブ・タイムズ1884年5月29日)。

「人々はへりくだりの見せかけに徳があるという印象を受けているようであった。しかし、礼拝の形式が受け入れられるのは、ただ魂が霊的な観点において、自然に神のみ前にへりくだる時のみである」(説教と講和2巻249)

真の断食と祈りの精神は、思いと心と意志を神に委ねる精神です。自然に神のみ前にへりくだるのです。

しかし、どのようにしてこの精神を持つことができるでしょうか。

恵みと祈の霊とを注ぐ

「わたしはダビデの家およびエルサレムの住民に、恵みと祈の霊とを注ぐ。 ……」(ゼカリヤ12:10)。

「神の民はその道徳的な無力さから目覚めさせられなければならない。彼らは上からの力をもって生き返されなければならない。主は次のように約束された、『わたしはダビデの家およびエルサレムの住民に、恵みと祈の霊とを注ぐ。彼らはそ

の刺した者を見る時、ひとり子のために嘆くように彼のために嘆き、ういごのために悲しむように、彼のためにいたく悲しむ』。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1893 年 1 月 17 日)

「悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう」(マタイ5:4)。

「身を悩まさなければならない」。しかし、贖罪の日に求められた断食、身を悩ます祈りの精神は、神の賜物として約束されているのです。これは、救いを得させる悔い改めも同様です。

悔いのない救を得させる悔改め

「今は喜んでいる。……神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、……見よ、神のみこころに添うたその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである」(コリント第二7:9-11)。

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。 罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。苦しめ、悲しめ、泣け。 あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ。主のみまえにへりくだれ。 そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう」(ヤコブ4:8-10)。

「悔い改めは信仰を伴い、福音の中で救いに不可欠なものとして強く勧められている。パウロは悔い改めを説いた。…… (使徒行伝 20:20, 21)。悔い改めのない救いはない。悔い改めない罪人は心から義に至るように信じることができない。悔い改めは、パウロによって、神のみこころに添うた悲しみと述べられている。……(コリント第二 7:10)。この悔い改めはその中に功績になる性質は何もないが、キリストを唯一の救い主、すなわち失われた罪人の唯一の希望として受け入れるために、心を準備するのである。

罪人が律法を見るとき、自分の罪深さが明白になり、良心に迫って、有罪宣告を受ける。彼の唯一の慰めと希望はカルバリーの十字架を眺めることのうちに見出される。彼が思い切って約束をつかみ、神をそのみ言葉通りに信じるとき、

安堵と平安がその魂にもたらされる。彼は叫んで言う、『主よ、あなたがあなたの御子のみ名によってあなたの許へ来るすべての人を救うと約束されました。わたしは失われた無力な希望のない魂です。主よ、お救いください。さもなければ滅びます』。彼の信仰はキリストをつかむ。そして彼は神のみ前に義とされるのである。

しかし、神は義であられながら、なお罪人をキリストの功績を通して義認することがおできになる一方で、だれも知っている罪を犯したり、知っている義務を怠りながら、キリストの義の衣で自分の魂を覆うことはできない。神は、義認が起こる前に、心を完全に明け渡すことを要求される。そして人が義認を維持するために、愛によって働き、魂を清める活動的な生きた信仰を通して継続的な従順がなくてはならないのである」(信仰と行い 99, 100)。

罪人は自分の救いに対してまったく無力です。そのため、神は彼らのために完全な救い主を与えて下さいました。彼らを義とするための功績はすべてキリストにあります。しかし、神が罪人に与えて下さるのはそれだけではありません。すなわち、彼らに恵みと祈りの霊を注ぎ、律法によって彼らの罪深さを明らかに示すことによって、その救い主を受け入れる準備も与えて下さるのです。罪人がなすことは、その一つ一つを退けず、疑わずそのまま感謝して受けることです。自分の無価値さを知りながらも、ただこのお方の恵みにより頼んで約束をわがものと主張し、心を完全に明け渡します。これが真の断食と祈りの精神であり、このとき、彼らを義と認めることがおできになります。このように信仰によって義認された人は、その信仰によって生き続けることにより、義認を維持します。

義認された命は罪の奴隷となることがない

「わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架 につけられた。それは、この罪のからだが滅び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となるこ とがないためである」(ローマ 6:6)。

キリストの義認は罪を許すだけでなく、新しい命を生きるためです。十字架を感謝する とは、十字架の原因となった罪を憎むことであり、十字架のゆえに可能となった罪のない 生涯を喜ぶことです。すなわち、キリストと共に生きることなのです。 「わたしたちがキリストの義で覆われるとき、罪に対して興味がなくなる。なぜなら、キリストがわたしたちと共に働かれるからである。わたしたちは間違いを犯すかもしれない。しかしわたしたちは神の御子の苦しみを引き起こした罪を憎むのである」(レビュ・アンド・ペッルド 1890 年 3 月 18 日)。

キリストと共に生きている者は「神に仕える者」、すなわち神のしもべです。「しもべがその主人の手に目をそそぎ、はしためがその主婦の手に目をそそぐように、われらはわれらの神、主に目をそそいで、われらをあわれまれるのを待ちます」(詩篇 123:2)。

あなたが常に仕えている神はあなたを救うことができたか?

「あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように」(ダニエル 6:16)。

「生ける神のしもベダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか」(ダニエル 6:20)。

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」(ペテロ第一5:8)。

「あなたがたを守ってつまずかない者とし、また、その栄光のまえに傷なき者として、 喜びのうちに立たせて下さるかた」(ユダ 1:24)。

このように仕えるしもべは、主人に絶えず目を注ぎ、主人と一つになっていきます。

神の民は嘆き悲しむ

「その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ」(エゼキエル 9:4)。

「終末の時にあって、神の民は地に行われる憎むべきことを、嘆き叫ぶのである。彼らは涙を流して、神の律法をふみにじる危険について悪人たちに警告を発し、言語に絶した悲しみをもって、主の前にへりくだり罪を悔いる。悪人たちは彼らの悲しみをあざけり、彼らの厳粛な訴えを嘲笑する。しかし、神の民の苦悩と屈辱とは、罪の結果失われた品性の力と高貴さを、彼らが回復しつつある間違いのない証拠である。彼らが罪のはなはだしい邪悪さをはっきり認めるのは、彼らがキリストに近づき、彼らの目がその完全な純潔さ

を凝視するからである。柔和と謙遜が、成功と勝利の条件である。栄光の冠は、十字架のもとにひざまずく者を待っている。柔和と謙遜が、成功と勝利の条件である。栄光の冠は、十字架のもとにひざまずく者を待っている」(国と指導者下巻195,196)。

「わたしたちは日々自分たちが出会う男女は裁きに向かっていることを常に覚えているべきである。彼らは大いなる白い御座の前に立ち、もしわたしたちが義務に不忠実であったら、すなわちもしわたしたちの模範が彼らを真理とキリストから離れさせるなら、わたしたちに不利な証をし、あるいはわたしたちの忠誠が彼らに義の道へと促したという証言を担うのである。これらの魂は永遠にわたって神と小羊に賛美を捧げるために生きるか、もしくは悪人と共に滅びるかのいずれかである。キリストは彼らが祝福に満ちた永遠を享受することができるように、苦しみ、死なれた。わたしたちは彼らの救いのためにどのような犠牲を払っているであろうか」(州バ・ガ・州ば、1885年10月8日)。

わたしたちは、今、この白い御座の前で奉仕しておられるキリストを仰ぎ見て、生きて いるでしょうか?

(46 ページの続き)

まの律法を守り、また安息日に敬意を払うために非難されたことは一度もありませんでした。それどころか、このお方はつねに律法をあまさずその完全さのうちに掲げられました。

イザヤはキリストについて次のように預言しました。「その教(律法)を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする」(イザヤ42:21)。大いなるものとするとは、より大きくするということ、つまりより高い位置へ置くことです。

キリストはどの部分においても律法のすばらしい意味を示すことによって、それを大いなるものとされました。このお方は、人が見ることのできる行動だけではなく、神さまにしか知られることのない思いの中においても、律法に従うべきことをお教えになりました。

キリストは律法を無にするために来られたと主張するすべての人に、このお方ばわたしが律法や預言者を廃(はい) するためにきた、と思ってはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである」と言われました(マタイ 5:17)。

成就するとは、守る、つまり実行することです (ヤコブ 28 参照)。ですから、 パプテスマのヨハネからパプテスマを受けるためにこのお方が来られたとき、「この ようにすべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」と 言われました (マタイ 3:15)。律法に従うとは、それに完全に従うことです。

神さまの律法は決して変えることができません。なぜなら、キリストが次のように言われたからです。「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである」(マタイ 5:18)。

「あなたがたに聞くが、安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺す のと、どちらがよいか」と質問なさったとき、キリストはご自分を告発した邪悪な パリサイ人たちの心を読むことができることをお示しになりました。

このお方が病気をいやすことによって命を救おうと努めておられるときに、彼らはこのお方を死刑にすることによって命を滅ぼそうとしていました。彼らがしようとしていたように、安息日に殺す方が、このお方がなさったように苦しんでいる人を癒すよりも、良いのでしょうか?

神さまの聖なる日に心の中で殺人をする方が、すべての人に対して愛をいだくこと一親切にそしてあわれみを行うのに表れている愛一をいだくよりも良いでしょうか?

何度もユダヤ人たちはキリストが安息日を破られたといって非難しました。しばしば彼らはこのお方が自分たちの伝統にしたがって安息日を守られないのでこのお方を殺そうとしました。しかし、これはこのお方にとっては関係ありませんでした。このお方は神さまが望んでおられる通りに安息日を守られたのです。

食パン豆腐キッシュ

■材料

食パン 8枚 豆腐(固めのものか、しっかり水切りする) 1 T 玉ねぎ 1/2個 ほうれん草 1/3束 人参 3センチ パプリカ 1/4個 塩 小さじ1 醤油 少々 オリーブ油 小さじ 1

■作り方

- 1. 食パンをマフィン型に合わせて正方形に切り、麺棒で伸ばしてマフィン型に入れる。
- 2. 豆腐と塩、オリーブ油をフードプロセッサーで滑らかになるまで混ぜる。
- 3. 野菜を炒めて塩、醤油で味付けし、炒めた野菜を豆腐と一緒にフードプロセッサーで混ぜる。
- 4. マフィン型に入れた食パンの上に豆腐をのせて、180°Cのオーブンで焼き色がつくまで焼く。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。



【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第21話 安息日の遵守(川)

遵守=じゅんしゅ:守り、従うこと

「また、ほかの安息日に会堂にはいって教えておられたところ、そこに右手のな えた人がいた。

律法学者やパリサイ人たちは、イエスを訴える口実を見付けようと思って、安息 日にいやされるかどうかをうかがっていた。

イエスは彼らの思っていることを知って、その手のなえた人に、『起きて、まん 中に立ちなさい』と言われると、起き上がって立った。

そこでイエスは彼らにむかって言われた、『あなたがたに聞くが、安息日に善を 行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか』。

イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくななのを嘆いて、その人 に『手を伸ばしなさい』と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになっ た。

「そこで彼らは激しく怒って、イエスをどうかしてやろうと、互に話合いをはじめた」 (ルカ6:6-10,11 マルコ3:5)。

救い主は、次の質問をなさることによって、彼らがどれほど理不尽(りふじん) であるかを示されました。「イエスは彼らに言われた、『あなたがたのうちに、一匹 の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手を かけて引き上げてやらないだろうか』。

これに彼らは答えることができませんでした。そこでこのお方は言われました「人



ぐれているではないか。 だから、安息日に良い ことをするのは、正し いことである」(マタイ 12:11, 12).

「正しいことである」 つまり、律法にかなって いるということです。キ リストはユダヤ人が神さ

(43 ページに続く)